

平成29年度 事務事業点検評価報告書 [総括表] (広陵町教育委員会)

<p>事業目標</p>	<p style="text-align: center;">自己を愛し、家族・友を愛し、郷土を愛することができる人づくり</p> <p>○自ら学び、基礎・基本の重視と個性を生かす教育の充実をはかり、心豊かな人間の育成を目指す。</p> <p>○知・徳・体の調和のとれた自立した子どもの育成に努め、地域の一員であることを自覚し進んで社会に貢献できる人間の育成を目指す。</p> <p>○人間尊重の精神を培い、家庭や地域社会との連携を図り、地域の信頼と期待に応える教育行政を目指す。</p>
<p>事業方針</p>	<p>○総合教育会議の開催による町教育行政の推進と広陵町教育大綱の策定を目指す。</p> <p>○学校教育の充実を図るため、学習意欲の向上と基礎学力の定着を推進するとともに中学校給食の充実を目指す。</p>

●教育総務課

前年度の成果と課題	本年度重点目標	具体的目標	総合評価
<p>○広陵町教育大綱の策定</p> <p>○中学校給食を含む食育の推進</p> <p>○小中学校の空調整備</p> <p>○小中学校の連携教育の推進と児童生徒の学力向上</p>	<p>○総合教育会議の開催と広陵町教育大綱の策定</p> <p>○給食センター稼働による中学校給食の実施及び小中学校の食育の推進</p> <p>○小中学校の普通教室等に空調を設置する。</p> <p>○小中連携教育の推進と学力向上に向けた各校における取組の強化</p>	<p>○町長部局と教育委員会事務局との連携協力による年3回の総合教育会議の開催と教育大綱の策定を含む教育委員会各課の諸事業の検討と評価を目指す。</p> <p>○中学校給食が実施され給食センターの円滑な稼働と中学校の給食実施に伴う体制づくりを進める。</p> <p>○中学校の給食実施による食育の推進とともに小学校における給食を中心とした食育の充実を図る。</p> <p>○小中学校の普通教室等に空調を設置し、学習環境の改善を図る。</p> <p>○まずは教科化となる道徳の研究授業での小中連携を進め、順次、他教科の連携を進めていく。</p>	<p style="text-align: center;">A</p>

評価項目分野	具体的目標 (評価小項目)	具体的方策・評価指標	自己評価結果 (A・B・C)		成果と課題 (評価結果の分析)	関係者評価 (結果・分析)及び改善方策
教育委員会活動	教育委員会の開催	○毎月開催する定例教育委員会での教育における諸問題の課題解決に向けた審議	A	A	○定例委員会を12回、臨時委員会を2回開催し、後援名義の使用承認や学力学習状況調査の分析結果の検討、教育委員会に関わる規則や要綱等の変更や人事案件の承認などを審議し、開かれた教育委員会を目指している。	○定例委員会を毎月開催し、審議を行うことで、滞りなく教育行政を推進することができている。
	教育行政の推進	○年3回の総合教育会議の開催	A		○広陵町教育大綱の策定とともに教育委員会各課の諸事業の報告や学校における問題等を基に町長部局と教育委員会事務局との連携協力による教育行政の推進を図る。	○教育大綱の策定に基づく教育行政が進められている。
	幼稚園訪問及び学校訪問	○幼稚園6園、小中学校7校を対象とした訪問を年2回(春、秋)実施	A	A	○全学級の授業参観による子どもの学習状況の把握と学校長や園長からの学校・園の経営方針や課題を聴取するとともに教育委員会からの指導助言を行った。 ○10月には13校園を訪問し、今年度や来年度の修繕箇所について、管理職から説明を受けるとともに視察による現認作業を行い、早期対応すべき箇所の検討と助言を行った。	○学校・幼稚園を訪問することにより、本町教育現場の現状が把握でき、その上で、教育の振興に向けた協議・指導・助言を行っている。
	視察研修	○全国・近畿教育委員会研修大会への参加 ○教育委員会活動における先進地視察	B		○近畿市町村教育委員会研修大会(紀の川市)に参加し、特別支援の子どもとの向き合い方や実践発表を聞き、今後の本町における取組への示唆を得た。 ○文部科学省主催の全国市町村教育委員会研究大会(沖縄県)に参加し各府県の取組(学力向上の取組)について聞き、今後の本町における取組への示唆を得た。	○教育委員会研修大会や先進地視察で得た情報や取組内容を本町でも実施推進しようとする。○教育行政の充実・発展に向けて、教育現場の課題に対する改善に努めるとともに本町教育振興の理念に基づく人づくりを進めている。
	各種行事への参加	○入学(園)式、卒業(園)式、運動会・体育大会、町教育講演会、町民体育祭、文化祭、成人式等への参加	A		○各学校・幼稚園の主要行事に参加し、各校園の幼児児童生徒の雰囲気や成長の様子を観察することで、今後の校園への指導助言に役立てた。 ○町教委主催事業に参加し、町教育行政の助言者として指導助言を行った。	

評価項目分野	具体的目標 (評価小項目)	具体的方策・評価指標	自己評価結果 (A・B・C)			成果と課題 (評価結果の分析)	関係者評価 (結果・分析) 及び改善方策
学	学校施設環境改善	○小中学校における教育環境向上の一環として、空調設備整備事業を実施	A	A	A	○昨今の熱中症防止対策として、町内全小中学校普通教室等に空調を整備し、教育環境の向上を図った。今後は、学習指導要領の変更に伴う授業時間数の確保の検討材料としたい。	○子どもの学習環境を整えることで更なる学習意欲の向上を目指している。
	学習意欲の向上及び学習習慣の定着化	○教員の指導力及び資質の向上	B	B	B	○町教委主催の初任者研修において、教員としての心構えや服務、児童生徒理解、生徒指導等の講義及び町内の文化財の見学、授業参観による授業研究の方法や教材研究の方法について伝達・指導した。 ○町教委主催の教育講演会（特別支援教育）及び食物アレルギー対応研修等、教員の資質向上を目的とした研修会を実施した。	○子どもの学習意欲を向上させるため、教える側の教員に対して、今日的な課題を町内の全ての教員を対象に実施してる。 ○調査結果による現状把握と分析から、学校間格差を是正する取組を各学校に発信し、学力向上及び体力の向上に努めている。
校	学力・体力の向上	○児童生徒の学力向上 ○児童生徒の体力向上	B	B	B	○全国・県学力・学習状況調査の結果を分析し、本町の児童生徒の現状把握及び各学校の課題（学校間格差が大きい）解決に向けた学力向上への取組に努めている。 ○全国及び県の体力・運動能力、運動習慣等調査結果の分析を受けて、引き続き投力（ソフトボール投げ、ハンドボール投げ）について、目標指標を設定し、各学校での授業や遊び時間を通して改善を図り、さらなる伸長を遂げた。	
教	食育の推進	○給食を中心とした食育の推進 ○食物アレルギー対応	A	A	A	○小、中学校ともに完全給食を実施し、成長期に必要な栄養を提供するとともに、献立表や給食だより等を通じて、食への関心・知識を深めている。 ○給食で広陵町産や奈良県産の地場産物を使用することで、地域の農作物について知り、食への感謝の心を育てている。 ○食物アレルギーを有する児童生徒へ安全に給食を提供できるように、保護者、学校、教委、給食センターで連携をし、面談や個別の支援プランを作成し、給食を実施している。	○必要な栄養を摂取でき、食への興味・関心も高まっている。 ○地場産物を使用することで、地元への興味・関心がわき、生産者への感謝につながる。 ○食物アレルギーを有する子どもも給食を食べることができ、安全な給食実施に努めている。

具体的目標 (評価小項目)	具体的方策・評価指標	自己評価 結果 (A・B・C)			成果と課題 (評価結果の分析)	関係者評価 (結果・分析) 及び改善方策
育 の 充	○年3回の就学指導委員会の開催	A	A		○第1回は、就学指導委員会の立ち上げと委員長及び委員を決定するとともに、奈良県の特別支援教育の方向性についての講演を行った。第2回は、各校園から申請された個々の内容の報告と検討、第3回は、就学先等の決定を行った。次年度は、名称を「教育支援委員会」に変更する方向である。	○就学指導委員会により、個別の支援が必要かどうかを検討し特別支援学級・学校への進級・進学の審査を適切に行っている。
	○小中学校における「個別の支援計画」の作成	A	A	A	○特別支援コーディネーター連絡会を立ち上げて、特別支援巡回アドバイザー川西先生指導の下、「個別の支援計画」の見直しを決定した。次年度からは、こども園・保育園・幼稚園とも連携を深めて、「個別の支援計画」作成の取組を進めて行く予定である。	○特別支援教育の充実発展に向けて、より一層小学校と中学校の連携を深めようとしている。
	○課題を抱えている児童生徒への対応	B	A		○県教育委員会より生活支援アドバイザー武輪先生の巡回訪問を受け、支援を要する児童生徒への関わり方や保護者、教員へのアドバイスをいただき、児童生徒が安心して学校生活を送れるように支援した。 ○通級指導教室の村上先生に巡回訪問していただき、個別のニーズにあった支援を展開することができた。	○課題を抱えている子に、より児童生徒のニーズにあった指導を展開しようとしている。
充 実	○各部活動に係る費用全般の補助 ○奈良県内公式戦出場にかかるバス借上料を町が予算内で負担 ○近畿・全国大会出場生徒及び引率教員の費用を補助	A	A	A	○学校教育活動の一つとして中学校における部活動の全てに活動の一助となる補助をした。 ○中体連主催事業の公式戦を中心に連盟・協会の準公式戦にも出場できるようにバスの借り上げ料を負担し、活動への意欲につなげた。 ○近畿・全国大会に出場する生徒及び引率教員への旅費等を補助することで広陵町の名声及びスポーツ振興に寄与した。補助金要綱を定め、次年度からの派遣に明確な基準を設けた。	○町内中学校における部活動に対して、様々な形で補助することで部活動の活性化につなげている。

●学校支援室

前年度の成果と課題		本年度重点目標			具体的目標		総合評価
<ul style="list-style-type: none"> ○夏季教育相談を含めた様々な教育相談の充実 ○就学援助の充実 ○いじめ防止に向けた体制の構築 		<ul style="list-style-type: none"> ○町内各小中学校への支援体制の強化を目的とした組織体制の構築 ○就学指導を中心とした教育相談及び課題をもつ子どもや保護者への支援の充実 ○準要保護家庭への就学援助の充実 ○広陵町いじめ防止対策推進条例及び広陵町いじめ防止基本方針に基づいた取組の推進 			<ul style="list-style-type: none"> ○各学校における生徒指導上の課題に対して、迅速かつ適切な支援・助言を進めるための組織体制を構築する。 ○就学指導（特別支援教育）に伴う夏季教育相談の充実と県から派遣されているスクールカウンセラーの活用及びスクールソーシャルワーカー、心の相談員等の課題をもつ子どもや保護者への適切な相談活動を充実させる。 ○町内各小中学校の準要保護家庭への就学援助の充実と新入学学用品費の入学前支給の周知の定着化を図る。 ○広陵町におけるいじめ防止対策推進条例及び基本方針の策定に基づき、いじめ問題連絡協議会等を設置する。関係機関との連携及びいじめの防止等に向けた効果的な取組を進める。 		B
評価項目分野	具体的目標 (評価小項目)	具体的方策・評価指標		自己評価結果 (A・B・C)		成果と課題 (評価結果の分析)	関係者評価 (結果・分析)及び改善方策
教育相談	夏季教育相談の実施	○主に特別支援教育を対象とした教育相談を3歳児から中学3年生および、その保護者を対象として、夏休みの土・日に実施		A	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ○教育相談件数が年々増加傾向にあることから夏季教育相談の新たな方向性を検討している。 ○カウンセリングマインドをもったカウンセラーの配置によって、子どもだけでなく保護者もカウンセリングを受けることで子育て等教育に関わる悩みの相談に中学校を中心に幅広く対応できている。
	スクールカウンセリングカウンセラーの派遣	<ul style="list-style-type: none"> ○県教委からの広陵中学校、真美ヶ丘中学校へのスクールカウンセラー配置 ○町教委臨床心理士を、小・中学校に派遣 		B	B	<ul style="list-style-type: none"> ○7月29日（土）と7月30日（日）で総合保健福祉会館（さわやかホール）にて開催。申込相談件数は74件（昨年度比+4件）で、年々件数が増加している。今後の動向を踏まえた教育相談の形態を検討していく必要がある。 ○県派遣スクールカウンセラーは、年間101時間の派遣を行った。広陵中学校では、延べ61件（うち校区内小学校4件）、真美ヶ丘中学校では、延べ100件（うち校区内小学校2件）の相談に対応した。真美ヶ丘中学校では、1年生を対象にカウンセリングとストレスマネジメント講演を行った。 ○予約相談について、小・中学校での巡回相談を行った。延べ93件の相談に対応した。 	

活 動 の 充 実	具体的目標 (評価小項目)	具体的方策・評価指標	自己評価 結果 (A・B・C)		成 果 と 課 題 (評価結果の分析)	関係者評価 (結果・分析) 及び改善方策
	スクールソーシャルワーカーの派遣	○県生徒指導支援室生活支援アドバイザーを主に小学校に派遣 ○2学期から町費学校生活アドバイザーを小・中学校に派遣	A		B	○スクールソーシャルワーカーの新たな派遣やこれまでの心の相談員、まなびの相談、子どもと親の相談員の派遣によって教員以外の立場から児童生徒、保護者が相談を受けることで様々な問題の解決につながっている。 ○かたらい教室の活用方法を継続的に模索していく。
	心の相談室の開室	○広陵中学校と真美ヶ丘中学校で相談室を開室し、各学校で月に1回臨床心理士を派遣	B			
	まなび相談室の開室	○広陵中学校で相談室を開室し、月に1回臨床心理士を派遣	B	B		
	子どもと親の相談員の配置	○子どもと親の相談員の配置。町立5小学校に退職教員等を子どもと親の相談員として配置	B	B		
	適応指導教室との連携	○大和高田市教委との提携による、適応指導教室「かたらい教室」の利用	B	B		
					○生活支援アドバイザーは年間24日以内、町費学校生活アドバイザーは週4回、小・中学校に派遣し、課題のある児童・生徒の行動観察や担任等に社会福祉的観点からの助言・指導・関係者間調整を行った。 ○延べ79件の相談に対応した。 ○延べ23件の相談に対応した。 ○広陵東小学校は延べ79件、広陵西小学校は延べ314件、広陵北小学校は延べ68件、真美ヶ丘第一小学校は延べ112件、真美ヶ丘第二小学校は延べ151件の相談に対応した。 ○平成29年度は7人が登録。面接相談27回、集団適応指導教室出席54回であった。不登校の児童・生徒本人は、かたらい教室に通えない場合もあるため、保護者、教員の相談先として活用できるよう進めていく。	

評価項目分野	具体的目標 (評価小項目)	具体的方策・評価指標	自己評価結果 (A・B・C)			成果と課題 (評価結果の分析)	関係者評価 (結果・分析) 及び改善方策
就学援助の充実	準要保護家庭への就学援助	<p>○各小中学校の準要保護家庭に対する就学援助の充実</p> <p>○新入学児童生徒学用品費の入学前支給の実施により就学援助の更なる充実</p>	A	A	A	<p>○準要保護家庭への学用品、新入学児童生徒学用品、通学用品、修学旅行費、校外学習費、給食費の援助を実施した。</p> <p>小学校 100名 1年：13名 2年：15名 3年：19名 4年：11名 5年：23名 6年：19名</p> <p>中学校 92名 1年：43名 2年：15名 3年：34名</p> <p>○新入学児童生徒学用品費の入学前支給を実施した。 〈支給人数〉 小学校入学予定 11名 中学校入学予定 21名 (小学校6年生)</p>	○準要保護家庭への手厚い援助により子どもの貧困対策の一助となっている。
いじめ防止対策の推進	各学校でのいじめの対応	<p>○各学校におけるいじめアンケートの実施</p> <p>○各学校におけるいじめ防止基本方針に基づく取組の年間計画の作成及び学校いじめ防止対策委員会設置への助言</p> <p>○広陵町いじめ防止対策推進条例及び広陵町いじめ防止基本方針の策定</p>	B	B	B	<p>○県からのいじめアンケート(6月実施)だけでなく、各学校は学期に1回程度のアンケートを実施して、いじめは絶対許さないという強い思いでいじめ防止を推進した。</p> <p>○各学校にいじめ防止基本方針の見直し(H25年策定)と学校いじめ防止対策委員会を設置するよう働きかけた。</p> <p>○広陵町いじめ防止対策推進条例及び基本方針を策定するとともに各学校におけるいじめ防止基本方針の策定を進めた。</p>	○学校教育の今日的課題となっているいじめの対策について、「いじめは絶対許さない」という強い信念が感じられる。

●生涯学習課

前年度の成果と課題		本年度重点目標		具体的目標		総合評価	
<p>○生涯学習施策の充実</p> <p>○国民文化祭開催</p>		<p>○「人と人」「人と地域」がつながり、支え合う生涯学習社会の構築を目指し、関係機関と連携しながら、活力あるまちづくりを進める。</p> <p>○「第32回国民文化祭・なら2017」の開催に向けて積極的に取り組む。</p>		<p>○社会教育委員により編集している「広陵町のまつり」の冊子作成に向けて準備を行う。</p> <p>○国民文化祭の併設イベントとして、広陵町太鼓の饗演、文化歴史ゼミナール、伝統文化ワークショップ、ジュニア古代体験を実施する。(太鼓の饗演については、台風のため中止)</p>		A	
評価項目分野	具体的目標(評価小項目)	具体的方策・評価指標		自己評価結果(A・B・C)		成果と課題(評価結果の分析)	関係者評価(結果・分析)及び改善方策
地域ぐるみの子育てと家庭教育	学校・地域パートナーシップ事業	○学校からの要請に応じ、地域コーディネーターと学校支援ボランティアが協力して、学校のさまざまな活動を支援		A		○ボランティアとコーディネーターの協力により、調理実習等の授業支援、花壇の手入れ等の環境整備、登下校時の見守り等、子どもたちへの支援を実施した。	○ボランティア及びコーディネーターの募集方法等を工夫し、人員確保に努めようとしている。
	青少年健全育成事業	<p>○PTA指導者研修会の実施</p> <p>○関係機関と連携した町内巡視の実施</p>		A		<p>○学校、家庭、地域が連携・協力しながら、地域の教育力の向上に繋げるため、町内の幼・小・中学校のPTA及び学校関係者等を対象に「スマホ時代の子どもたちに保護者ができること」と題して指導者研修会を開催した。</p> <p>○夏期休暇時等の夜間巡視をはじめ、河川・ため池等危険箇所点検を実施した。</p>	○核家族化による、育児の孤立化等に対応する研修内容を検討する。
家庭教育	家庭教育学級	○町内の各幼稚園、小学校、中学校において、それぞれ年間3回の家庭教育学級を実施		A	A	<p>○保護者が子どもの心身の発達や課題、保護者としての役割や家庭の在り方等を学ぶ場として、全ての幼稚園、小・中学校で、年間3回の実施があった。</p> <p>○就業しているPTAの増加等により、参加者が減少傾向にある。</p>	<p>○園・学校の協力を得て、多忙な中、積極的に取り組んでいる。</p> <p>○内容等を工夫し、より充実した学級とするよう検討を重ねている。</p>

評価項目分野	具体的目標 (評価小項目)	具体的方策・評価指標	自己評価 結果 (A・B・C)		成果と課題 (評価結果の分析)	関係者評価 (結果・分析) 及び改善方策
生涯学習の発展強化	社会教育委員活動	○広く社会教育を通し、活力あるまちづくりを推進 ○世代間交流を目的として、地域の研究調査を実施	A		○年2回の定例会のほか、事業開催のための会議を開催した。 ○11月23日に世代間交流事業（パークゴルフ大会）を開催し、88人が参加した。 ○地域間交流事業への協力をはじめ、各種大会・町行事等に出席した。 ○地域の調査研究の成果品として「広陵町の民話」「ふるさとの言葉」の冊子を発行した。	○冊子の発行については、メディアにも取り上げられ、高い評価を得ている。 ○関係機関との連携を強化、活動の活性化を推進している。
	文化祭	○文化的創造意識の高揚と、文化芸術活動の振興のため、文化の日を中心に文化祭を開催	A	A	○11月3日～5日の3日間、文化祭を開催した。第56回文化展覧会（448人・688点の出展、2,001人の来場）のほか、中央公民館活動発表会、参加体験型教室、幼稚園児絵画展、保育園児作品展、文化歴史講演会と発掘速報展、子ども映画鑑賞会、中学生絵画展を開催した。	○町の文化活動の中核を担う事業として、地域に根付いている。 ○駐車場不足に対応する必要がある。
	成人式	○二十歳を迎えた新成人を祝うため、成人の日に成人式を開催	A		○新成人で構成する成人式実行委員会が中心となって、式典を進行した。 ・対象者 399人（町内 376人・町外 23人） ・参加者 309人（対象者の77.44%）	○式典内容の再考を検討している。 ○記念撮影の円滑化を検討している。
	公民館活動	○地域における学習需要に応える社会教育施設として、人づくり・地域づくりを推進	A		○各種教室・講座・子ども対象事業のほか、女性学級、実年学級等を開催した。 ○公民館育成クラブとして、59団体・773人が活動した。	○受講者の高齢化・固定化に対応する講座等の検討が必要である。
	施設利用	○主催事業・育成クラブの実施のほか、公共的な利用への貸館事業を実施	A		○中央公民館の施設利用者 2,988件・36,026人	○施設の老朽化に伴い、改修等の検討が必要である。
	国民文化祭	○平成29年9月～11月に奈良県で開催される「第32回国民文化祭・なら2017」「第17回全国障害者芸術・文化祭なら大会」の併設イベントを開催	A	A	○「広陵かぐや姫まつり」と「町文化祭」を併設イベントとして、4つの事業を展開する予定であったが、広陵町太鼓の饗演は台風のため中止となり、次の3つのみ開催した。 ・文化歴史ゼミナール ・伝統文化ワークショップ ・ジュニア古代体験	○県と連携した広報活動が必要である。

評価項目分野	具体的目標 (評価小項目)	具体的方策・評価指標	自己評価結果 (A・B・C)			成果と課題 (評価結果の分析)	関係者評価 (結果・分析)及び改善方策
人権教育	人権教育の推進	○人権尊重の理念に対する理解と体得のため、関係団体と連携して、多様な学習機会を提供し、人権教育施策を推進	A	A	A	<p>○広陵町人権教育推進協議会として、次の会議・研修等を開催した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・役員会及び総会 各1回 ・人権セミナー (全3回：うち1回は家庭教育学級と連携) <p>○関係団体との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> 総会への協力及び参加 2回 研修会・講習会への参加 11回 	○より地域に密着した取組を推進する。
青少年健全育成	青少年健全育成のための様々な活動	○関係機関等と連携し、地域社会の中で青少年の健全育成を推進	A	A	A	<p>○青少年健全育成協議会として、次の事業を実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・委員会及び総会 各1回 ・祭り等に伴う町内巡視活動 2回 ・研修会への参加 3回 ・啓発活動等 2回 ・定例巡視及び立哨等 19回 	<p>○会員の高齢化・固定化に対応し、人員確保に努める必要がある。</p> <p>○地域住民の意識高揚のため、より一層の啓発活動を検討する。</p>

●文化財保存課

前年度の 成果と課題		本年度重点目標		具体的目標		総合評価
<ul style="list-style-type: none"> ○百済寺防災設備改修 ○巢山古墳整備事業 		<ul style="list-style-type: none"> ○巢山古墳史跡整備事業 ○指定文化財の保守点検助成 ○文化財ガイド活動の支援と利便施設の整備 		<ul style="list-style-type: none"> ○十分な事業費を確保して、全体計画を進める。 ○百済寺、教行寺防災設備保守点検に助成する。 ○文化財ガイドが案内する観光客数を増加させる。 		B
評価 項目 分野	具体的目標 (評価小項目)	具体的方策・評価指標	自己評価 結果 (A・B・C)		成果と課題 (評価結果の分析)	関係者評価 (結果・分析) 及び改善方策
文 化 財 の 保 存 と 活 用	発掘届進達	○埋蔵文化財包蔵地の開発行為に伴う発掘届進達	B	B	○発掘届件数70件、試掘9件、立会13件、慎重工事48件。公共及び民間開発の発掘届の奈良県文化財保存課へ進達した。	<ul style="list-style-type: none"> ○試掘・立会件数を増やし、情報収集に努める。 ○委託内容を検討して効率化を図る。 ○事業費確保に努め、全体計画を進めている。 ○県補助金上限額を超える分については、町と所有者と折半している。 ○観光客数が前年比で124人増加している。
	史跡等環境整備	○史跡等の環境整備(5箇所)、収蔵庫管理(1箇所)	B		○巢山古墳、牧野古墳、乙女山古墳、三吉石塚古墳、石ヶ谷古墳の除草・剪定業務をシルバー人材センターと広陵古文化会に委託、与楽寺収蔵庫管理業務を広瀬区に委託した。 当初予定した除草・剪定回数を確保できなかった。	
	史跡整備事業	○巢山古墳史跡整備事業	B		○巢山古墳第18次発掘調査で440㎡を調査し、史跡整備工事で墳丘36m、外堤52mを護岸工事をした。 事業費が減額されているため、全体計画が遅れている。	
	防災設備改修	○指定文化財防災設備保守点検	A		A	

評価項目分野	具体的目標 (評価小項目)	具体的方策・評価指標	自己評価結果 (A・B・C)		成果と課題 (評価結果の分析)	関係者評価 (結果・分析) 及び改善方策
	普及啓発事業	<ul style="list-style-type: none"> ○文化財保存センター所長講座の開催 ○文化財ガイドの実施 ○大垣内立山保存会への助成 ○デジタルミュージアム計画の推進 	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ○広陵古文化会と協同し町立図書館で考古学講座を2回開催、合計85人が受講した。 ○文化財ガイド会員24人が1,642人の観光客を案内した。 ○町指定無形民俗文化財の立山保存会活動を助成した。 ○巢山古墳出土遺物の3次元画像を作成した。 	○公共施設総合管理計画との整合を図りながら進める。
	施設整備	○歴史資料館の条件整理	C	C	○単独館の基本設計書が完成し、整備検討委員会の答申が出されたが、実施設計に至っていない。財源及び人材確保を図りながら進める。	

●スポーツ振興課

前年度の成果と課題		本年度重点目標			具体的目標		総合評価
<ul style="list-style-type: none"> ○生涯スポーツの情報と機会の提供 ○スポーツ推進委員や体育協会との連携・協力の伴うスポーツの振興 		<ul style="list-style-type: none"> ○生涯スポーツの情報と機会の提供 ○体育指導員や体育協会との連携・協力の伴うスポーツの振興 			<ul style="list-style-type: none"> ○生涯スポーツに対する住民の意識高揚を目標に、健康づくりに必要な情報提供と施設利用の拡大を計り、住民主体のクラブである総合型地域スポーツクラブの活動が軌道に乗るよう支援を行う。 ○軽スポーツなど新種目への設備を充実させ、ミニ体育館利用者のマナー向上、施設の維持、管理、改修を行う。 ○町民体育祭においては参加しやすい種目内容の導入を考える。 		A
評価項目分野	具体的目標 (評価小項目)	具体的方策・評価指標	自己評価結果 (A・B・C)			成果と課題 (評価結果の分析)	関係者評価 (結果・分析)及び改善方策
社会体育	生涯スポーツの振興	○生涯スポーツに対する住民の意識高揚	A	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ○第59回春季町民総合体育大会 9種目・311人・24チーム参加 ○第46回秋季町民総合体育大会 9種目・387人・17チーム参加 ○第59回町民マラソン大会 325人参加 ○住民参加型スポーツイベントチャレンジデーの開催 H29年度参加者 23,634人 住民参加率67.5% ○総合型地域スポーツクラブの支援 実施事業：8教室、2イベント 会員数 184名 参加人数 延べ9,322名 	<ul style="list-style-type: none"> ○体育協会・総合型スポーツクラブ等と連携し、各種スポーツ教室・大会等の内容充実を図っている。また、チャレンジデーなどのイベント開催により町民のスポーツ・健康づくりに対する意識の高揚に努ようとしている。

具体的目標 (評価小項目)	具体的方策・評価指標	自己評価 結果 (A・B・C)		成果と課題 (評価結果の分析)	関係者評価 (結果・分析) 及び改善方策
の 充 実 施設の利用	○体育館の設備充実・維持・管理・改修	A		○各施設の利用者数 中央体育館 1,379件 21,096人 ミニ体育館(4館) 5,274件 77,925人 運動場(4箇所) 692件 16,046人 テニスコート(4箇所) 2,849件 16,782人 ○施設の大規模改修等 ①広陵西体育館床改修工事 ②真美ヶ丘体育館アリーナ照明LED化工事	○各体育施設について 安全性の確保や利用 促進を見据えた適正 な維持管理・改修に 努め、管理運営体制 の充実を進め、有効 活用を図ろうとして いる。
町民体育祭	○町民が参加しやすい種目内容の導入	B		○前年度の町民体育祭は雨天のため中止となったが、今回 実施したことにより反省点や参加者・関係者等の意見を反 映し、体育祭の内容の充実に努める。	○町民が参加しやすい 内容の体育祭実施を 検討していく。

●図書館

前年度の成果と課題		本年度重点目標		具体的目標		総合評価	
<p>○図書館システム入替を行い、電子図書館を導入し、読書推進機能を充実した。</p> <p>○学校図書室支援スタッフの勤務内容を見直し、学校図書室の支援強化に努めた。</p>		<p>○町民の教養、調査研究、レクリエーション等に資する事を目的に、新鮮で有効な資料を収集し、生涯学習拠点としての機能強化及び利用促進に努める。</p> <p>○開館20周年及び、移住・定住促進を目的としたカフェの開設があり、節目となる年であるため、改めて町の情報拠点として図書館サービスを見直し、サービスの向上に努める。</p> <p>○電子図書館及び読書推進機能の活用促進</p>		<p>○町民のニーズを把握し、新鮮な図書資料を提供する。</p> <p>○リクエスト資料を確実に提供する。</p> <p>○図書館行事の開催により、図書館利用促進を図る。</p> <p>○アンケートの実施により、より快適な図書館環境を整える。</p> <p>○機能を利用したイベントを計画し、利用促進につなげる。</p>		A	
評価項目分野	具体的目標 (評価小項目)	具体的方策・評価指標		自己評価結果 (A・B・C)		成果と課題 (評価結果の分析)	関係者評価 (結果・分析) 及び改善方策
図書館	図書の収集・保存・提供	<p>○新規出版物の把握に努め、ブックリストの他、本の展示会、出版社の巡回、見計らい等での本の選書及び利用者への新鮮な図書の提供</p> <p>○利用者の希望する図書をリクエストサービスにて提供</p>		A	A	<p>○年間約8,000冊の図書を購入し、H29年度末時点で蔵書冊数291,048冊。貸出冊数はH29年度実績475,275冊となっている。</p> <p>○リクエスト数はH27年度933件→H28年度1,722件→H29年度1,023件となっており、落ち着きを見せている。シリーズ所蔵本の細かいチェックと新刊本の早期購入の成果による減少と思われるが、以前リクエストは多く、利用者ニーズは多岐にわたるため、迅速で確実な提供に努めていく。</p>	○新刊本の充実に取り組んでいる。また、町民サービスの観点から町民のリクエストを積極的に取り入れ、リクエストに確実に応えている。
	活動	図書館行事開催	<p>○図書館資料を利用して、専門講師による講座や、親子向けの絵本講座、映画会・読書会等の開催及び図書館利用と読書活動の推進</p>		A	A	<p>○図書館講座(月1回)・読書会(月1回)・映画会(月1回)・本のテーマ展示(月1回)・赤ちゃんから絵本を楽しもう(月2回)・おはなし会(毎週1回)・ブックリサイクル(年1回)・一日図書館員体験(夏休み)・子ども読書の日特別行事、読書通帳発行、本の福袋等の行事</p>

の 充 実					を開催した。 また、これら通常行事の他、20周年特別行事として、コンサートや図書館クイズ、スタンプラリーを開催した。また福袋は当館を舞台とした映画「天使のいる図書館」のウエダアツシ監督やかぐやカフェオーナー選書の福袋を企画し、図書館のアピールに努めた。 今後もテーマに、時節や利用者のニーズに合ったものを選定し、参加者の増加を目指す。	
	図書館運営の見直しとサービスの向上	○利用者アンケートを実施し、利用者の現在のニーズを把握し、図書館運営を見直し、サービスの向上を図る。	A		○1,000枚配布し、761枚の回答を得た。実際の利用者の意見を感じ取り、求めているサービスを知ることができた。 これを元に次年度は可能な範囲で利用者ニーズに沿ったサービスを展開出来るよう努めていきたい。	○結果を元にどんなサービスを提供できるのか、検討し、できることから進めている。
	システムにおける読書推進機能の充実	○図書館システム入替に伴い導入した、電子図書館及び読書推進機能の活用	A	A	○電子図書館を体験出来るコーナーを設置し、実際に体験してもらうことで、利用促進につなげた。 ○読書マラソン大会を実施し、読書推進に努めた。利用者全員参加のイベントであったが、実際の結果報告者は54人だったため、PR不足が課題であると考えられる。	○体験イベント後は利用も増えたが、継続して活用してもらえるよう、情報発信を常々行うよう努めたい。

●給食センター協議会

前年度の成果と課題		本年度重点目標	具体的目標			総合評価	
○協議会及び運営委員会の開催を行い、円滑な中学校給食センターの稼働並びに安全安心な給食の提供を行った。		○円滑な中学校給食の実施及び給食センター「スマイル」の稼働。 ○給食センターの稼働に伴う運営委員会等、円滑な中学校給食に向けた様々な取組と安心安全な給食の提供。	○協議会で、中学校給食施設の管理や運営に関する事項について審議を行う。 ○運営委員会及び部会で、中学校給食の円滑な運営について必要な審議を行う。 ○安全安心な給食提供を図る。			A	
評価項目分野	具体的目標 (評価小項目)	具体的方策・評価指標	自己評価結果 (A・B・C)			成果と課題 (評価結果の分析)	関係者評価 (結果・分析)及び改善方策
中学給食充実	協議会委員会の開催	○中学校給食施設の管理や運営に関する事項について審議を行う。	A			○会議を2回開催し、規約、規定に基づき施設及び設備の保守(瑕疵)内容を精査し運営実施等を審議した。	○協議会委員会を開催し審議を行うことで滞りなく協議会運営を推進することができている。
	運営委員会及び部会の開催	○中学校給食の円滑な運営について必要な審議を行う。	A	A	A	○運営委員会を2回、献立編成部会6回、物資納入者選定部会6回、アレルギー対応部会1回を開催し、献立編成や物資納入並びにアレルギー対応について審議した。	○運営委員会、部会を開催し審議を行うことで、給食の円滑な運営を推進している。
	安全安心な給食提供	○危機管理マニュアルに従い、センター、学校、教育委員会と連携を図る。	A	A	A	○ヒューマンエラーを限りなくゼロにするため、各関係機関と連携を図り未然防止対策に努めた。 (調理稼働日数：172日 合計調理数：603,028食)	○各関係機関と連携を図り安全安心な給食提供の推進に努めている。
	残食の抑制及び対策	○各学校別の残食率等の集計、給食時の視察、献立編成等を行い、残食率を抑制する。	A	A	A	○中学校給食開始日から日が浅く各中学校の学年別残食率の集計や給食時の視察を行い、献立や傾向等の分析を行い対策や献立を工夫する等の改善を図った。	○各学校と密な連携を図り、残食の原因等の分析を行っている。